長年の功績を称えて 香美市市民賞

11月3日、**第14回香美市市民賞表彰式**が香美市役所で開催されました。

同賞は、産業・教育・文化・政治・福祉などの分野で活躍、貢献のあった方を表彰するものです。

今年は、2名の方が受賞され、式典では、法光院市長のあいさつや来賓の依光県議会議員からのお祝いの言葉の後、表彰状と記念品が授与されました。受賞されたお二人の、今後ますますのご活躍をお祈りいたします。

▲岩河基行さん（中央左）、酒巻恭博さん（中央右）

岩河基行さん（土佐山田町百石町）71歳

岩河基行さんは、平成4年に岩河整形外科を開業されてから現在まで、地域住民の健康問題に深く関わってこられました。また、令和2年6月からは香美郡医師会の副会長を務められ、医師会活動にも大きく貢献されております。

酒巻恭博さん（土佐山田町山田島）78歳

酒巻恭博さんは、片地小学校ＰＴＡ会長などを務められ、少年野球の指導・監督、校門付近の見守り活動など、地域教育の推進に貢献してこられました。また、保護司、民生児童委員としても、青少年の健全育成や更生に貢献されました。

高知工科大学・楠目小学校の "雑がみ" リサイクルPV製作

10月12日、『"雑がみ" リサイクルで生ごみを減らそう！』をテーマに、高知工科大学生と楠目小学校4年生がプロモーションビデオ（PV）を共同制作しました。

捨てられた雑がみのリサイクルの過程や、実際に雑がみをリサイクルできる紙とできない紙の分別について学びました。子ども達が雑がみの分別を行う中で、「この紙は分別できるの？」といった質問が多くあり、雑がみのリサイクルへの関心が高まっていました。

制作された『"雑がみ" リサイクルプロモーションビデオ』は香美市のフェイスブックやホームページで見ることができますので、ぜひご覧ください。

令和3年7月7日から8月31日までの期間で募集を行いました、令和4年度に新築移転する香美市立図書館の愛称が決定しました。県内外から750点（ハガキ423点、インターネット325点、FAX2点）のご応募をいただき、選考委員会による審査のうえ、片地小学校6年生の大坪龍さんの考案した『**かみーる**』に決定しました。大坪龍さんには、白川教育長から認定証と副賞（図書カード3万円分）が贈られました。今後もたくさんの方に愛され親しまれるような図書館となるよう取り組みを進めて参ります。

香美市文芸

風の流れ

◆一般投稿作品◆

岡崎桜雲　選

秋雨や墨絵のごとき剣山　山﨑　貴子
河鹿（かじか）鳴く古里恋し水清し　岡本　初美
コスモスや草に負けじと背伸びする　五百蔵利美
秋雨や深夜便よりリコーラン　伊藤　清子
競い合い田植せし頃懐かしき　山﨑　寿美
みどり児のふくよかな頬（ほほ）菊日和　中村　紫乃
病窓を開けて広々早生の秋　山﨑　雅也
唐竿（からざお）で坪に莚（むしろ）の蕎麦（そば）叩く　明石　韮生
新藁の香りのすがし空の青　楮佐古きよ
新米を炊きておこげの塩むすび　利根　弘子
走り星願ひの糸は切れしまま　山﨑　鈴子
爽籟（そうらい）やオフィスよりの電子音　古川　信子
ゼラニウム主無き庭に咲きほこり　森本　幸美
西日さす石垣を背に父がいる　原　茂
風呂上がりすぐに薮蚊に迎えられ　畠山　千江
ハート形の紫陽花いとし小雨ふる　西野地　薫
琉球の味がなつかし母の味　東　月
青蛙幹の穴から踊り出る　吉川　恵
玄関におじぎしている夏椿　小松　美鶴
立ち話長くなりさう合歓の花　秋山　英身
薄暗き店先にあるおでん鍋　原　恭子
七種（ななくさ）に足らねど粥を仏壇に　大場比奈子
日焼け子の首筋白く残りけり　秋　星
昨日より頭の重き梅雨曇り　井上　有子
八十路前最後の新車雲の峰　佐　和
夏野菜光を浴びて色を増す　溝渕　龍泉
捨畑のところどころの秋桜　宗石　愛喜
秋蛇に澄みたる眼ありにけり　森本　之子
コスモスの自在に風を追ふ川原　山崎かずみ
虫の音に囲まれつつがなきわが家　山中　明石

◆美良布俳句会◆

触れ合ふて夕日拝める花芒（すすき）　北村　里子
玉そろふ青柚香みちて集荷場　小野川順子
独り居のテレビを伽（とぎ）に夜長かな　中内ゆかり
風呂の湯を一度上げたるそぞろ寒　前田　芳子
朝寒の風吹く庭に犬跳ねて　高田　米子
四万十の鮎とし育ち下るかな　甲藤　卓雄

◆かほく俳句会◆

地に座すは禅僧めきぬ榠櫨（かりん）の実　乾　真紀子
しみじみと里の電話に虫の声　岡本　敏子
一と手間の炭火起して秋刀魚焼く　小松　昇
銭金の話の後の心太（ところてん）　杉山　春萌
こおろぎの声澄む朝の禅堂に　津田吾燈人
鵙（もず）高音荒神（こうじん）様の社にて　野村　里史
人の減る韮生の里の秋深し　前田　欣一
獣道躓（つまず）きながら栗拾ふ　前田　智
母在りて子ら訪ねくる栗ごはん　宮崎ただし

今月のキラリ

新米を炊きておこげの塩むすび

広報委員会

ふっくらと炊き上がった新米の風味と旨さ、それも「おこげ」も混じった塩むすび。お母さんが心を込めて握ってくれた「おむすび」なら、なおさらである。丹精込めて育てた、韮生米でしょうか。日本に生まれて良かったと思う、心温まる豊かな一句。

俳句・短歌の投稿方法

▼投稿方法は自由。住所、氏名、電話番号を明記してください。
▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。
▼誌面の都合により掲載されない場合があります。

【投稿先】総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
〒782－8501（住所記載不要）
FAX 53・5958